

「なかつた」としてはならない

関東大震災時の朝鮮人虐殺

今年8月、小池百合子東京都知事が、毎年9月1日に市民団体が都立横網町公園（墨田区）でおこなう「関東大震災朝鮮人犠牲者追悼式」への追悼文送付を見送ることを表明しました。これまで歴代知事がおこなってきたもので、「三国人」発言をした石原慎太郎元都知事ですら送付しています。これに対し、「震災時に朝鮮人が虐殺された史実の否定にもつながりかねない」と多くの抗議が寄せられています。

今回は、虐殺事件を振り返りながら、私たちが今なすべきことを考えていきます。

虐殺された人々

1923年9月1日に起きた関東大震災では、東京と神奈川を中心に10万棟以上の家屋が倒壊。関東各地で地震による火災も加わり、大きな被害が出た。

東京だけでも6万人、総計10万人以上の死者が出たと言われる大惨事の混乱と不安の中、「朝鮮人が井戸に毒を入れた」「社会主義者や朝鮮人が放火している」などの流言が出まわった。これを真に受けた住民たちが自警団を結成。行政や軍隊も加わり、多くの朝鮮人や中国人が各地で虐殺された。また「暴動の扇動や計画をした」として、社

会主義者や労働運動指導者も逮捕、殺害された。

自警団や警察は、語頭に濁音がないという朝鮮語の特性から、「十五円五十銭」と言わせ、うまく発音できなければ朝鮮人と判断して殺害した。方言のため「朝鮮人」とみなされ殺された日本人の地方出身者もいる。

政府による隠ぺい

殺された朝鮮人は数千人とされるが、詳細はわからないことが多い。それは当時の政府により徹底して隠ぺいされたからだ。「起訴せられたる事件にして鮮人に被害ある者は、速やかにその遺骨を不明の程度に

換えられている。

その後の政府も真相究明のための調査をおこなってこなかった。事件の公的資料が極めて少ないのはそのためである。

差別意識が土台に

この虐殺事件を「朝鮮人が暴動を起こしていたので正当防衛だった」と言う人々がいるが、根拠として

「知らない人が来たのをぶったりした」などと書き

加害の歴史に向き合う

今年の「朝鮮人犠牲者追悼式」には、例年の倍以上の約500人が参列した。

追悼文を送付しないことについて記者会見で問われた小池知事は「全ての方々への法要を行いたいという意味から、特別な形での追悼文提出を控えた」「様々な歴史的な認識があるのかと思っております」として、「朝鮮人虐殺」に一言も言及しなかった。加害の事実をなかつたことにしようとする姿勢は許されない。

に、デマ（虚報）が真実であるかのように広まってしまったのだ。その大きな理由が朝鮮人への差別意識だ。

災害時のデマを、メディアや行政が信じて広めたのは94年前の日本だけではなく。2005年、アメリカ・ニューオーリンズ州でハリケーンの被害が出たときも、黒人蔑視の意識が生んだデマを州知事や市長も信じ、拡散されたことで殺人事件が発生した。2011年の東日本大震災では、「外国人が犯罪をおこなっている」という噂が流れた。このように、デマは差別意識を土台にして広がっていく。

過去の事実に向き合うことでしか、「このようなくことを繰り返さない」未来は見えてこないことをあらためて肝に銘じたい。

福田村事件

地震発生から5日後の9月6日、千葉県東葛飾郡福田村（現・野田市）で、自警団によって、香川県出身の行商団が不審者として疑われ、襲われた。一行15人のうち9人が殺害され、利根川に流されてしまった。犠牲者は、香川県三豊郡の被差別部落出身の人たちだった。

志賀直哉 [作家]

大手町で積まれた電車のレールに腰かけ休んでいる時だった。丁度自分の前で自転車で来た若者と刺子を着た若者とが落ち合った。2人は友達らしく立話を始めた。(略) [鮮人が裏へ回ったんで、直ぐ日本刀を持って追いかけると、それが鮮人でねえんだ。しかしこういう時でもなけりゃあ、人間は斬れねえと思ったから、とうとうやっちゃったよ] 2人は笑っている。

(『震災見舞 (日記)』『志賀直哉全集』改造社、1931年)

証言の数々



横網町公園に設置された追悼碑

あの晩、私は入谷の市電車庫にある電車の中で泊まったんですよ。朝鮮人騒ぎで、若い男が警備にあたっていました。そこに、電車の運転席の下についている網の中で寝ていた人がいましたね。だれかが、その人を見て「朝鮮人だ」って叫んだんですよ。その人、びっくりして逃げ出したんです。そしたら追っかけた憲兵が頭を一突きにしてみましたよ。その人、最後の力をふりしぼって、ポケットの中から木の札を出したんです。それが車掌の証明書だったんですね、日本人でしたよ。

(『週刊読売』1975年9月6日号、読売新聞社)

賀川豊彦 [社会運動家]

私が東京への途中、六郷橋の付近で、6名の朝鮮労働者が破壊された道路に押しやられているのを見た。この上、言うべきこともない。私が東京から神戸に向おうとした時には、2万余名の朝鮮労働者が店舗を襲撃中だとか、まだ、そんなことを言っていた。このように風説が盛んな時、一般人の心理がもっとも大きくなり、狂ったようになった所に際会した朝鮮人諸氏の困難は、真に想像外だ。その中で一番酷かったのが横浜であり、東京は二番目だが、中でも向島方面、一般学生諸氏は大多数が安全であったと信じたい。

(『朝鮮日報』1923年9月13日)

寿けいさつの前を通りこそうと思うと、門内からうむうとうめき声が聞こえて来た。(中略) うむうむとうなっているのは、五、六人の人が木にゆわかれ、顔なぞはめちゃくちゃで目も口もなく、ただ胸のあたりがびくびくと動いているだけであった。

私はいくら朝鮮人が悪い事をしたというが、なんだかしんじようと思ってもしんじる事はできなかった。其の日けいさつのにわでうめいていた人は今どこにいるのであろうか。

(琴東洞編『朝鮮人虐殺関連児童証言史料』緑蔭書房、1989年)

【参考文献】

- ①『関東大震災朝鮮人虐殺の記録 ―東京地区別1100の証言― 西崎雅夫（現代書館／2016年）
- ②『九月、東京の路上で 1923年関東大震災 ジェノサイドの残響』加藤直樹（ころから／2014年）
- ③『関東大震災』吉村昭（文春文庫／1977年）
- ④『別冊スティグマ第14号 福田村事件 関東大震災時の行商人虐殺』社団法人千葉県人権啓発センター（2001年）